

# ポロニア

ポロニアは県花「桐」の学名です。

発行／岩手県高等学校PTA連合会

[事務局]盛岡市上田三丁目2-1 TEL (019) 625-6386

E-mail. iwa\_koupren@ybb.ne.jp FAX (019) 613-7795

http://iwateken-koupren.org/

新たな正しい時代へ 未来をつくる人を育てよう

## 第65回全国高P連大会岩手大会開催

第65回全国高等学校PTA連合会大会岩手大会は8月20・21の両日、滝沢市の岩手産業文化センターなど7会場に全国から9540人が参加して開かれました。テーマは「未来圏からの風をつかめ！～新時代を担う君たちと共に」。宮沢賢治の詩「生徒諸君に寄せる」の一節にある、青少年たちが未来を目指して力強く歩んでほしいという思いを託し、親たちもまた一緒に歩もうという決意を新たにするとともに、参加者の心に深く刻み込まれる大会になればと、岩手県高等学校PTA連合会は3年前から準備を始め、前年の大会には視察団を派遣したほか、本大会には県内の各高校PTAから延べ約2千人がボランティアとして参加し大会運営を支えました。おもてなし



▲開会式 スクリーンは渡辺正和実行委員長



▲佐野元彦大会会長

ました。岩手大会実行委員長の渡辺正和岩手県高P連会長が歓迎のあいさつをしました。東日本大震災のあと、被災地で初めて開かれた全国高P連大会でもあり、これまでの復興支援に「感謝を示すまたとない機会であると考え、一同心を込めて準備にあたってきた」と述べました。

の心をこめた運営を目指しました。開会式は20日、岩手産業文化センターをメイン会場に盛岡市アイスアリーナとを中継画像で結んで行われました。全国高等学校PTA連合会の佐野元彦会長は「日本の社会は大きく変わろうとしている。次々と現れる課題を目の前にして果敢としていく現状を克服し、宮沢賢治の言う新たな正しい時代を作り、さらに正しく発展させていくその人を育てることは、社会からの要請であり、未来からのメッセージだ。保護者と教職員とががちりタッグを組んだPTAこそが、社会総がかりで未来を作る人を育てるための主人公になるべきではないか」と呼びかけ



▲全体会メイン会場「岩手産業文化センターアピオ」

て対応を説明しました。さらにグローバル教育や情報モラル教育への姿勢を示し、東京オリンピックに向けたスポーツ振興に意欲を見せました。さらに岩手県知事代理の千葉茂樹副知事、盛岡市長代理の佐藤光彦副市長の臨席を賜り、祝辞が寄せられました。開会式のあとは、盛岡市出身で芝浦工業大学学長の村上雅人さんより「夢高くして足地にあり」と題して基調講演をいただきました。午後は7つの会場に分かれて全体会、分科会が開かれました。2日目は、盛岡市出身の映画監督大友啓史さんによる「アドリブを生きる力」と題した記念講演をいただきました。両日とも県内高校生によるアトラクションがオープニングと昼食時間に繰り広げられ、大会を大いに盛り上げてくれました。また、ロビーでは震災復興への義援金の呼びかけがありました。全体会の会場前ではチャグチャグ馬コとの記念撮影ができ、姿を見せた岩手山に「きれい！」という声に参加者からあがっていました。

来賓として下村博文文部科学大臣が祝辞を述べられました。学制改革、大学入学希望者評価テスト、選挙年齢の引き下げなどに関する国の考え方を説明し、矢巾町でのいじめ生自殺についても触れ



# 岩手大会を終えて

岩手県高P連会長 渡辺 正和

3年前に実行委員会を立ち上げた

岩手県高P連が総力を挙げて準備にあたってきた第65回全国高等学校PTA連合会大会岩手大会が、本年8月19日、20日、21日の3日間、滝沢市及び盛岡市の全7会場において開催されました。参加者は、主管県として目標としてきた数を上回る9540名でありました。

昨年の福井大会において、内館茂前実行委員長は、この岩手大会について「豪華なものや高価なものはないかもしれない。ただ何かが一つでも少しでも皆さんの心に残るものがあれば良いなと思っています」と挨拶しました。岩手県高P連は実行委員会を中心として、岩手大会を参加者の「心に残る大会」にするため準備にあたりてきました。

全国高等学校PTA連合会は岩手県が発祥の地であり、岩手大会は本家での久々の開催でした。昭和26年、盛岡二高PTA会長の長岡文蔵氏が中心となって岩手県高P連を結成し、そのときの熱意が全国高等学校PTA連合会（発足当時は「協議会」の発足）と発展し、初代会長と事務局を岩手県が担当したという歴史があるのです。また、東日本大震災の後、被災地で開催される初めての全国大会であり、これまでの多くの支援に対する感謝を示す機会ということもあり、岩手県高P連として総力を挙げて周到に準備をしてきた大会でありました。

大会初日の8月19日、黄色いポロシャツを着たスタッフが全国からの参加者を迎え、各種会議と歓迎レセプションが行われました。協議・検討を重ね、岩手色を前面に

押し出したメニュー、地酒コーナーはたいへん高評価をいただきました。

そして8月20日、ご来賓の下村文科大臣から現在直面する教育問題にも言及したご挨拶を頂戴し、アピオからアイスアリーナに映像を配信する方法で盛大に開会式が挙行されました。その後、村上雅人芝浦工業大学学長の基調講演では、「教育の原点は素晴らしい先生との出会いにある。偉大な教師は学びの心に火をつける。頭で考えることには限りがない。まさに「The sky is the limitである」とのお話があり、人生を豊かにするものは物欲や金ではなく「夢」であるという、たいへん考えさせられるお話をお聞きしました。

この日の午後は7会場に分かれての分科会が開催されました。主会場から分科会場場までの距離があり、移動には不便をおかけしましたが、各会場では多くの質問が出されるなど、発表者、パネリストの皆さまのおかげで活発な協議がなされました。

最終日の8月21日、「るろくに剣心」の老友啓史監督の記念講演では、想定外のこと起きたときにそれを乗り越えない人ほど現場から脱落していく、監督が結論を求めてしまふとそれと異なる結果になったときに結果の良さを理解できなくなってしまうというような現場での体験談や、優れた俳優の演技を交え、ご自身もアド

リブで話を進め、最後には「子供を育てることは最もクリエイティブな仕事であり、子供と向き合っているPTAに敬意を表する」というメッセージをいただきました。

その後、閉会式では大会宣言が採択され、次年度開催地である千葉県高P連からの挨拶があり、大会の幕を閉じました。振り返ってみると、この3日間はあつという間でした。ここに書いたほかに、大会を盛り上げてくれた高校生のアトラクション、参加者を出迎えてくれたチャグチャグ馬コ、最終日に配布された大会の様子の記事が掲載されている新聞の配布は、いずれも素晴らしいと評価され、参加した皆さまの「心に残る大会」になったものと考えております。

この岩手大会は歴代の会長の皆さま、実行委員の皆さまが準備していただきましたが、実務を担当してきたのは、岩手県高P連事務局です。大会直前には暑い中、冷房のない二室で高橋秀幸事務局長をはじめとする精鋭五名が全国の参加者からの問い合わせの電話に対応し、お弁当の手配イベント会社・印刷業者との打ち合わせ等々、奮闘していました。なかには苦情のような問い合わせもあり、相当なご苦労があったと聞いております。本当にお疲れさまでした。

この岩手大会の準備を通じ、県内の学校PTA内の会員同士のつながり、そして、学校PTA間のつながりが深く強いものになったと感じます。この岩手大会が契機となり、岩手県高P連が成長したことは間違いなく、今後、岩手の高校PTA活動はより活性化すると信じています。

岩手大会に関わってくださったすべての皆さま、ありがとうございました。岩手大会を通じて得たことを生かして、これからも子供たちのためにPTA活動に取り組んでまいります。

## 大会日程

### ●8月20日(木)……大会第1日目

《全体会》 9:00~12:50

会場 メイン会場：岩手産業文化センター(アピオ)

サブ会場：盛岡市アイスアリーナ

8:30	行事等	
9:00~9:30	アトラクション	メイン会場 ① 9:00~ 盛岡市立高等学校吹奏楽部 ② 9:15~ 盛岡第二高等学校箏曲部
		サブ会場 ① 9:00~ 岩泉高等学校郷土芸能同好会 ② 9:15~ 北上翔南高等学校鬼剣舞部
9:40~10:40	開会式(国歌斉唱、大会会長式辞、実行委員長開会の挨拶、来賓祝辞<文部科学大臣・岩手県知事・盛岡市長>、表彰式<文部科学大臣表彰、全国高P連会長表彰>)	
10:50~11:50	基調講演	演題：「夢高くして足地にありThe sky is the limit」 講師：村上雅人氏(芝浦工業大学学長)
12:00~12:50	昼食アトラクション	メイン会場 ① 12:20~ 岩手県立大学「さんさ踊り」実行委員会 ② 12:35~ 宮古水産高等学校太鼓部
		サブ会場 ① 12:20~ 花巻高等学校応援団 ② 12:15~ 大船渡東高等学校太鼓部

《分科会》 14:00~16:30 テーマと会場

全国高P連研究発表	全国高P連研究発表	岩手産業文化センター(アピオ)
第1分科会	学校教育とPTA	盛岡市アイスアリーナ
第2分科会	進路指導とPTA	岩手県民会館
第3分科会	生徒指導とPTA	盛岡市民文化ホール
第4分科会	家庭教育とPTA	盛岡グランドホテル
特別第1分科会	情報化社会と教育	ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング
特別第2分科会	防災教育・復興教育	都南文化会館(キャラホール)

### ●8月21日(金)……大会第2日目

《全体会》 9:00~12:00

会場 メイン会場：岩手産業文化センター(アピオ)

サブ会場：盛岡市アイスアリーナ

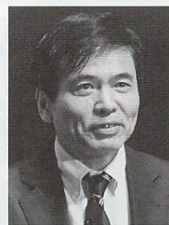
8:30	行事等	
9:00~9:50	アトラクション	メイン会場 ① 9:00~ 盛岡市立高等学校吹奏楽部 ② 9:25~ 盛岡第二高等学校箏曲部
		サブ会場 ① 9:00~ 岩泉高等学校郷土芸能同好会 ② 9:25~ 北上翔南高等学校鬼剣舞部
10:00~11:10	記念講演	演題：「アドリブを生きる力」 講師：老友啓史氏(映画監督)
11:20~12:00	閉会式(大会会長挨拶、大会宣言採択、全国高P連旗返還・授与、次期開催地挨拶<千葉県>、実行委員長挨拶)	

# 夢高くして足地にあり The sky is the limit

基調講演

## 村上 雅人氏

芝浦工業大学学長



全体会の基調講演は、超伝導工学の世界的な研究者で芝浦工業大学学長の村上雅人氏(盛岡市出身)でした。

国と岩手県が誘致を目指す国際リニアコライダー(ILC)の意義などに触れ、科学技術研究と学びの可能性は無限大と話されました。

自分の大きな転機は高校3年の時にアメリカに渡ったことで、そこで多様な価値観があることを知ったことはまさに「経験こそ最良の教師なり」だった。「The sky is the limit」の直訳は「空が限界」。

空は宇宙につながり、限界はない。つまり、あなたの可能性は無限大。教育は世界各国の課題で、ヨーロッパの大学では大改革をし、打ち出したコンセプトは「学生に何を教えたかではなく、学生が何を学んだかを重視しよう」。つまり、本当の基礎が大事。アクティブラーニング、自発的な学習が大切というが、偉大な教師は学生の学びの心に火をつける。火のついた学生は放つて置いてやる。やはり大切なのは人。教師の役割はここにある。もう一つ大事なものは夢と希望と志。物欲の行き着く末は限られている。だが、頭の中は無限大だ。人間はちっぽけな存在だが、我々の思いは宇宙に続く。「だから夢を持つべきなのだ」と語られました。

# 保護者目線で意義ある総会

全国大会  
団体表彰

## 岩手県立久慈高等学校PTA会長 下館 佳光



当地岩手県での全国高P連岩手大会において全国大会団体表彰受賞は、我々久慈高校PTAにとってこの上ない喜びであります。これも先生方や役員・会員の協力、

ご尽力の賜であり、深く感謝申し上げます。

久慈高校は沿岸北部の進学校として未来のリーダーとなる人材育成に取り組んでいます。総会での保護者向け進路講演会は、保護者にとって有益で興味関心が高くなるよう吟味し、音楽関係部の演奏披露なども毎年趣向を変えつつ取り組み、例年ほぼ過半数の高い出席率を継続しています。進路指導課による進学に向けた詳しい情報説明も行われ、参加率に結びついています。

今後も子どもたちの将来を考え活躍している姿も見られる保護者目線で、意義ある総会に致します。今回の栄えある表彰を糧に更なる活発なPTA活動を推進してまいります。ありがとうございます。

# 子供たちに身近なPTA活動を目指して

文部科学大臣  
表彰受賞

## 上野 勝俊

岩手県立葛巻高等学校PTA会長



8月の第65回全国高等学校PTA連合大会岩手大会での「平成27年度優良PTA文

部科学大臣表彰」受賞は、私たち葛巻高校PTAにとって大きな喜びでありました。また、この受賞はこれまで当PTA活動を継続して下さった多くの先輩会員の方々を始め、先生方、地域の皆様の御尽力の賜であり、ここに深く感謝申し上げます。

葛巻高校は地域に根ざした中高一貫教育を掲げて活動をしています。私たちはこのような子どもたちの身近なところで支えになろうと、交通安全街頭指導やPTA役員による進路面接指導、「葛巻祭」におけるファミリーレストランの運営を行っています。多くの会員の方々が参加し、子どもたちと関わりを持つPTA活動を、今後も一体感を持って円滑に進めていこうと決意を新たにしております。

# 人生って素晴らしい 正解のない時代 まず楽しく夢持って

全国大会  
役員表彰

## 内館 茂

岩手県高等学校PTA連合会前会長



この2年間、皆様にはたくさんのことを教えていただき本当にありがとうございました。

段の九九を練習しました。素直な気持ちで一所懸命に努力することの大切さ思い出させてくれました。

近い将来には今の職業の半分がなくなる!! 絶対の正解のない、今までの常識が常識でない、厳しく難しい時代を子ども達は生きていかななくてはなりません。

人生って、やっぱり素晴らしいということです。子ども達に何とか伝えていきたいです。

苦しいこと辛いこともありませんが、まず自分自身が楽しく夢を持って、諦めず生きていきたいと思っています。

共に楽しく全国大会の準備をしてきましたが、当日は個人的な都合で出席できずに、皆さんとあの時間と場を共有できなかったことはとても残念に思っています。

我が家の長男長女は家から巣立ち、一人暮らしをしています。一番下の子は小学校の2年生、新しい気持ちで子育てをしています。昨日の夜は布団の中で6の

※内館さんは東北地区高P連青森大会においても感謝状を受賞されました。

盛りあげてくれました！



▲北上翔南高等学校鬼剣舞部



▲大船渡東高等学校太鼓部



▲岩泉高等学校郷土芸能同好会



▲花巻北高等学校応援団幹部



▲盛岡市立高等学校吹奏楽部 Pleasure Star



▲宮古水産高等学校太鼓部



▲岩手県立大学さんさ踊り実行委員会



▲全国高P連大会 岩手大会での演奏 盛岡第二高等学校箏曲部

部活を支えるPTA 箏曲部

沢山の方々に支えられて

岩手県立盛岡第二高等学校 箏曲部保護者会 中塚美乃

岩手県立盛岡第二高等学校箏曲部は昨年創部30周年を迎えました。この間講師の黒澤和雄・千賀子先生の熱心な指導の下、「技を磨こう、心を磨こう」をモットーに輝かしい伝統を築き上げてきました。全国高等学校総合文化祭・日本音楽部門コンクールには岩手県代表として25回参加し文部科学大臣賞を6回、文化庁長官賞を9回受賞、同コンクール上位4校による優秀校東京公演（国立劇場）には25回中17回出演と、いずれも全国最多の実績を挙げております。今年の全国大会では、盛岡二高の卒業生である吉田亜希子さんに作曲していただいた12作目の委嘱作品「箏四重奏曲」を24名で演奏し、多くの方々の賞賛をいただきました。

8月には岩手産業文化センターで全国高等学校PTA連合大会岩手大会全体会のアトラクションとして、全国から参加した皆様の前で演奏しました。

10月には毎年ご好評をいただいております第13回定期演奏会を開催致しました。3年生13名、2年生11名、1年生9名、OG10名が演奏し、沢山のお客様よりお褒めの言葉をいただきました。毎日の練習の成果を存分に披露してお客様から送られる拍手は、大きな喜びと励みとなり、部活動を行う原動力であったと思います。

高校生の部活動の中で沢山の貴重な経験ができますのは、長年にわたりご指導して下さいている黒澤先生ご夫妻、顧問の先生をはじめとする学校の先生方のご協力、心身共に温かく支える家族、友人、地域の方々、支えて下さったすべての皆様のおかげでございます。心より感謝申し上げます。

# 分科会について

## 第1分科会

盛岡市アイスアリーナ

### 学校教育とPTA

「生きる力」を育む教育とPTA活動

岩手県立不来方高等学校

PTA会長 小笠原千永

群馬・前橋西PTA会長はPTA主体、同窓会の協力でグリーンカーテン設置事業、エアコン設置に至る経緯を発表。長野・松本深志PTA会長は140年余の伝統校、伝統校3校による交流、OBによる特別講義等開催、生徒の自治を学校・PTAが支援する活動を発表。岐阜・立山工業育英会長は飛騨高山の地域特性「ものづくり」を通して震災被災地の保育園や地元保育園等へ遊具寄贈等地域貢献を支援する活動を発表。大分・日出総合PTA副会長はPTA総会を日曜日に開催し会員8割の出席率を確保。会員・生徒による環境整備活動、行事への炊き出し支援、地域と連動した挨拶運動を発表した。

## 第2分科会

岩手県民会館

### 進路指導とPTA

全国大会の運営を終えて

岩手県立盛岡第二高等学校

PTA会長 工藤優子

「進路指導とPTA」の主管校として県民会館の運営を担当し、保護者にスタッフとして協力いただき、大会本番に向けた打合せを3回実施。全国からの参加者に「岩手に来て良かった」と感じただけできるよう、笑顔で対応することを心がけました。当日はチームワークで対応することができ、全国理事の方には「盛

岡二高軍団は丁寧なおもてなしで、各パートでのきびきびした対応が印象だった」とお褒めの言葉をいただきました。

## 第3分科会

盛岡市民文化ホール

### 生徒指導とPTA

岩手県立盛岡第三高等学校

校長 和山博人

盛岡市民文化ホールで開催され、青森県立五所川原工業高校、神奈川県立鶴嶺高校、福井県立丹南高校、広島県立松永高校の各PTA役員の方4名が発表。今日的なスマホ・ラインや、いじめなどの問題について、保護者・地域住民・教員が生徒の規範意識の醸成にいかに関わってきたかという具体的な活動の発表内容は幅が広く、中身も濃いものでした。温かく充実した質疑の雰囲気、開場の皆様にも満足感がかがえました。ご協力、ご参加の皆様にご心より御礼申し上げます。

## 第4分科会

盛岡グランドホテル

### 家庭教育とPTA

自慢のPTA、チーム四高に感謝！

岩手県立盛岡第四高等学校

PTA会長 石亀賢一

テーマは「家庭教育とPTA」。盛岡グランドホテルで行われた。研究発表は4名で、保護者は家庭の中で地域の中で何ができるのか、何をなすべきか大変参考になりました。運営面では会場や受付、駐車場の誘導に40名のスタッフが必要だと知らされ不安でしたが、PTA理事、PTAOBの協力を得、当日は各々の役割に止まることなく臨機応変に対応し、ご来場の皆様にも満足いただけたと確信しています。

当分科会の助言者・本校の高橋校長から助言の最後に「この会場の運営・設営を担当したのは盛岡第四高等学校のPTAの方々で、私の自慢のPTAです」との言葉があり、会場から大きな拍手をいただきました。

## 全国高P連

岩手県産業文化センター

### 全国高P連研究発表

青少年の健全育成にかかわる研究発表

岩手県立盛岡第一高等学校

PTA副会長 松浦政彦

「平成26年度全国高校生生活・意識調査」をもとに検討し、講演後にパネリスト5名が話題提供をして会場の参加者と意見交換を行い、共通の認識が得られるよう企画した。京都大学准教授・木原雅子氏の講演ではスマホなどの普及によりネット上で人間関係が作られ、現実の人間関係の希薄化を指摘。また、表情を見せたくないなどの理由でマスクを使用する「マスク症候群」について、スマホ依存やマスク症候群の子は自尊心が低く、自尊心が低いと学力が低い傾向があるとの関係を提示。パネリストはコミュニケーションの重要性や学校を中心としたコミュニケーションで喜びを作り出すことの意義や、指示するのではなく自立を促す指導が望ましい等の意見を述べた。大人は子どもの声に耳を傾け、見守り、自尊心の向上に努めることが大切だと認識した研究発表だった。

## 特別第2

都南文化会館キャラホール

### 防災教育・復興教育

岩手県立紫波総合高校

PTA会長 丹内真波

安心安全な学習環境確保と子ども自身の危機回避能力向上への指導、そして自然と共存し災害と向き合い、被災経験を後世へ語り継ぎ、自らの在り方を考えられるような復興教育の重要性を協議した。パネルディスカッションでは震災当時の体験を教育者と保護者の立場で岩手県立高田高校長・横田昭彦氏と宮城県立気仙沼高校元PTA会長・熊谷栄明氏が発表。行政の立場からは岩手県教育委員会防災危機管理室主事・森本晋也氏の、ある子どもの行動から感じ学んだことを発表いただいた。また、岩手県大槌町長・平野公三氏は自身の体験と行政の立場について岩手大学地域防災研究センター教授・越野修三氏は永遠のテーマ「防災復興教育」のよりいっそうの重要性と必要性について語られた。

## 特別第1

ホテルメトロポリタン盛岡ニューイング

### 情報化社会と教育とスマートフォン・ネット依存と若者の生活スタイル

岩手県立平館高等学校

副校長 及川浩純

当分科会の助言者・本校の高橋校長から助言の最後に「この会場の運営・設営を担当したのは盛岡第四高等学校のPTAの方々で、私の自慢のPTAです」との言葉があり、会場から大きな拍手をいただきました。

第65回全国高等学校PTA連合会大会  
岩手大会の2日目は、岩手産業文化セン  
ターで盛岡市出身の映画監督、大友啓史  
さんより「アドリブを生きる力」と題し  
て講演をいただきました。

大友さんは慶応大学を卒業後、NH  
Kに入局。ドラマ番組部に所属しロサン  
ゼルスで脚本や演出を学びました。ドラ  
マ「ハゲタカ」「白洲次郎」「龍馬伝」な  
どの演出で高い評価を受け、各賞を受賞。  
独立後は映画「るろうに剣心」「ブラチ  
ナデータ」など大ヒット作を送り出しま  
した。

講演では映画製作の舞台裏を紹介しな  
がら、自らアドリブを生み出すような主  
体的な姿勢こそが道を切り開く、と呼び  
かけました。

【講演要旨】

大友さんは、監督とはメッセージや事  
象を解釈しトランスレートして伝えてい  
くことを担っており、スタッフとのコミュ  
ニケーションを通じて考え方を共有し、  
自分のプランニングを実現していく仕事  
であるといいます。

映画「るろうに剣心」の原作漫画は世  
界20数カ国で翻訳され、剣の心や侍の心  
を熱く語る大ファンがいます。一方、大友  
さんは新渡戸稲造の「武士道」をその時  
代の日本人の規範を知る重要な本として  
ひもとかれていますが、漫画「るろうに  
剣心」は「武士道」に匹敵する役割をもつ  
ているのでは？ と気づかれたそうです。  
フィクションを作るとき、時代考証や  
見る側・作る側の約束事などの「ルール」  
は必ずしも絶対的なものではない。もし  
何かルールを与えられたとき、それに対  
してオリジナルなもので打ち返す自分の  
反応をアドリブと呼ぶのならば、やはり  
人はアドリブ力を持たなくてはいけない  
のではないかと。コントロールできないも

第65回全国高等学校PTA連合会大会 岩手大会

「アドリブを生きる力」

講演

講師 ● 映画監督 大友啓史 氏

子育ては世界共通の  
世界一クリエイティブな仕事

オリジナルなもので打ち返す自分の反応  
「アドリブ力」を持つということ。



のに対して固定観念を持ちすぎず、思い  
がけないことが起きたとき咀嚼し解釈し  
て、自分からアイデアを出せるかが分岐  
点になると言います。

若い子たちはまだ知っていることが少  
ないはずだから、一つのルールを決めな  
くてもいいのではないかと。夢は一つでは  
ない。夢は持ったほうが楽しいかもしれ  
ないが、別になくても面白いことがある  
よ、ということも含め「アドリブを生き  
る力」を蓄えてほしい、と述べられました。  
さらに、子育ては世界共通の世界で一番  
クリエイティブな仕事。産むつらさの反  
面、産み終わる喜び、育て終わった喜び  
が大きい。そ  
こに日常的に  
かかわってお  
られる皆様に  
敬意を表しま  
す、と温かい  
言葉で締めく  
くられ、会場  
には万雷の拍  
手が響きまし  
た。



全国高P連会長へ返還され、来年の開催地である千  
葉県の大木幸夫大会実行委員長に手渡されました。

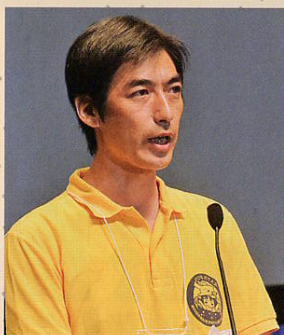


▲来年は千葉大会 / 閉会式でアピールする千葉高P連の皆様

第65回全国高等学校PTA連合会大会岩手大会  
は8月21日、2日間の日程を終えて閉会式が行われまし  
た。感動的な講演と、真剣で熱心な研究討議を重ねた  
参加者が再び岩手産業文化センターや盛岡市アイス  
アリーナに集い、青少年の健全育成への取り組みに  
決意を新たにしました。

岩手大会実行委員の松浦政彦さんが壇上で「教育  
は「生きる力」、すなわち知・徳・体を備えることを根底に  
据えた子どもの育成にこそある。子どもたちが、確かな  
学力と豊かな人間性、そして健康な身体をもって自らの  
人生と社会の未来を切り拓いていけるよう、その支援と  
振興に努める」など、6項目からなる大会宣言案を読み  
上げ、満場の拍手で採択されました。

このあと全国高P連旗が岩手大会実行委員長から



▲松浦政彦 実行委員  
(盛岡第一高校PTA副会長)

# 東北地区高P連 青森大会が開催される

第64回東北地区高等学校PTA連合会青森大会は「ふるさとを愛し、豊かな心をはぐくむために、SPTA活動とふるさと教育」をテーマに7月3日（金）青森市リンクスステーションホール青森で開催され、岩手県からは194名が参加しました。

最初に五所川原第二高校による「津軽三味線演奏」があり、引き続き開会行事・表彰式が行われました。研究協議では6県からの発表があり、岩手からは黒沢尻工業高校の高橋由紀恵会長が「高校でのPTA活動と地域社会との連携のために」と題して発表を行いました。昼食後、柏木農業高校の商品開発の取り組み、十和田西高校の観光PR活動についての発表、そして八戸中央高校2年金澤梨奈さんの生活体験発表がありました。講演会では「魂のゆくえ」と題して恐山菩提寺院代・南直哉氏のお話がありました。

8月に全国高P連岩手大会が開催されるといふことで、「岩手大会決起集会」を特別に企画していただき、「東北はひとつ」を合言葉に会場の皆さんから岩手に対する熱い声援をいただきました。最後に青森工業高校による「青工高担ぎねぶた」の勇壮な演技があり、閉会行事と続きました。研究協議、講演会そして高校生による多くの発表があり充実した大会となりました。



▲伝統の技を伝える 青工高担ぎねぶた



## 東北大会 感謝状受賞

黒沢尻北高校  
前PTA会長  
和賀 匡彦

常にご子ども達の未来を  
このたびの東北大会で感謝状を頂戴いたしました。以前、岩手県高P連の会長研修でPTA活動の事例発表の機会をいただいた際もお話ししました。他校のPTA活動と比べて特別な活動をしているわけではありません。PTA離れが叫ばれる昨今、我が校のPTA総会や学年PTAは高い出席率で推移してきました。現在PTA総会は授業参観と同日に実施しています。当校は進学校ということもあり、保護者は学校、特に学業面への関心度が高く、それが



## 東北大会 感謝状受賞

遠野緑峰高校  
前PTA会長  
昆 明美

子どもと共に成長するPTA  
この度第64回東北地区高等学校PTA連合会青森大会において感謝状を頂戴致しました。身に余る光栄でございます。これもひとえに諸先生方、PTA役員、PTA会員皆様方のご指導とご協力の賜と心から感謝を申し上げます。役を引き受けるということは仕事や家庭、そして地域のことなど様々な問題もありますが、たった3年間の高校生活の中で親も子も寄り添い向き合えるいい機会だと思えます。会員相互の情報交換や研修、交流の場を持つことにより子



## 東北大会 事例発表

黒沢尻工業高校  
PTA会長  
高橋 由紀恵

東北地区青森大会で発表して  
去る7月2日・3日に開催されました東北大会では、黒沢尻工業高等学校のPTA活動について、事例発表をしました。PTA会長になりたての私には、大勢の方々の前で発表することに、戸惑いと緊張感でいっぱいでした。しかも岩手県代表として発表することが私には荷が重く思っていましたので、大会前日の発表の順番を知らされたときは、「二番で大変だな」と思う気持ちでいっぱいでした。その後のリハーサルを広いホールで行ってみると、ここに聴衆

の方々が入るとなると緊張すると思いき、考えないようにしながら時間内で終わることを考えていました。このたびの発表を経験したことにより私もひと回り大きく成長できたと思いき、そのことを生かして今後もPTA活動に取り組みたいと思えます。このたびの発表に多大なご尽力をいただいた先生方をはじめ、前会長の高橋幸二様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

供達が現在おかれている環境の変化や社会情勢、学校生活の問題点等親も知り把握しなければならぬことが沢山あります。率先して役を引き受け、親も子も成長できる絶好のチャンスです。子を思う親の心は全国、万国共通だと思えます。現社会に対応できる強い精神力・忍耐力・行動力を身につけるため、家庭と学校、地域が連携することによりよい子育てができます。子供の健全な育成のために岩手県高P連、東北、全国の高P連の益々の発展と、活躍をご祈念致します。御礼の言葉と致します。ありがとうございます。

授業参観や学年PTA等への高参加率に結びついていると思われれます。これは、当時の先生方が試行錯誤した成果と言えます。保護者は学校に信頼を寄せていますが、決して任せっきりでありません。先生方と共に子ども達の未来に向けた努力をサポートする方法を探ってきました。先生方も保護者も生徒達も同じベクトルを向いていたのです。この同じベクトルを向くことが一番大切なことで、さまざまな価値観を持ちながらも、思うところは一つ。それは、子ども達の未来を常に考えるということです。



▲会長研修会で発表する堀田圭二花北青雲高校会長（右）と立野徹水沢工業高校PTA事務局長



▲会長研修会で講演する松尾正弘教浄寺住職

## 27年度岩手県高等学校PTA連合会 第25回会長研修会 応援し、 寄り添い見守る「慈悲の心」

平成27年10月16日（金）・17日（土）〔会場〕ホテル千秋閣（花巻市）

- 活動報告 花北青雲高等学校（堀田圭二会長）  
水沢工業高等学校（立野徹PTA事務局長）
- 講演「仏教の考え方」県高P連元会長・教浄寺住職・松尾正弘氏
- 第65回全国高等学校PTA連合大会岩手大会の反省と総括

平成27年度岩手県高等学校PTA連合会第25回会長研修会は10月16・17日の両日、花巻市で開かれました。

初日の研究協議では、花北青雲高PTAの堀田圭二会長が「創立40周年に向けた取り組み」と題して、生徒を巻き込んだ記念事業の取り組みと成果について発表しました。校章をデザインした焼き印が施されたマドレーヌ作りや、式典会場への木製スロープの設置、パドミントン用ノックマシン寄贈などをいづれも生徒たちが担いました。吹奏楽部は記念事業として贈られた楽器を使って演奏を披露

したことなどの紹介がありました。学校と同窓会、PTAが一体となった取り組みでした。

水沢工業高PTAの立野徹PTA事務局長は「本校のPTA活動報告」と題して発表しました。陶芸教室で会員間の親睦を図り、朝の一声挨拶運動を生徒会と合同で開催しました。挨拶運動の期間を「学校へ行こう週間」と名付けて、生徒を迎えた後に朝学習の風景を見学できるようにしたところ、参加率が前年度より向上したとのことでした。生徒に対する模擬面接指導なども行っているとの報告に、助言者から評価する声がありました。

その後、県高P連の元会長で教浄寺（盛岡市）住職の松尾正弘氏が「仏教の考え方」と題して講演しました。生老病死の四苦のほかの四つの苦を加えた八苦は「人間としてこの世に生まれた以上、逃れることができない苦しみ」と松尾氏。仏教の目的は悟りを得ること。悟りとは安寧をもたらす心の持ちようのこと。お経とは悟りを得るための方法が書かれた書物とのこと。宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の詩が心を打つのは慈悲の心だからと言います。「慈」とは頑張れ、応援するという意味、「悲」とは寄り添う、見守るという意味。震災時に感じた無力感を説明しながら「その人のために何かしてやりたい人だけけれども、自分には何もできない。自分が情けない、自分の無力さを痛感しながら立っている状態。そのときに、今は何もできないけど、言葉もかけてあげられないけど、でも側にいるよ、見守っているよ」ということが大事なんだと思います」と説きました。それがオロオロ歩きやテクノボードということと話されました。

2日目の研究協議の中で第65回全国大会岩手大会の反省と総括が行われました。事務局から、全国高P連の研修委員9人

による「大会チェックリスト」の内容が説明されました。打ち合わせから大会会議、レセプション、分科会、閉会式に至るまでの指摘が示されました。「岩手県民の温かさに感動した」「おもてなしの心がうれしかった」という高評価のほかに、進行の手順や弁当配布などについて指摘がありました。

### 平成27年度岩手県教育表彰を受けて



岩手県立黒沢尻北高等学校  
PTA会長  
八重樫 敏

本校PTAは、本校独自の特別な活動ではなく、どの高校でも可能な身の丈の活動を、できるだけ多くの会員に参加していただきながら行い、あわせて会員相互の親睦を図っていくことを目標としています。具体的な活動としては、総会、大学を訪問する研修旅行、研修会館や学校敷地内の清掃活動、黒陵祭の模擬店出店、そして各種研修などで、どの活動においても会員自身が自主的に、そして楽しみながら（懇親を

深めながら）参加しています。

会員全員が対象となる総会こそ出席率が40%を超える程度ですが、学年PTAや研修会においては70～80%超となり、保護者のPTA活動に対する理解と意識の高さが際立っています。

このたびの県教育表彰受賞を糧に、我々のPTA活動により生徒の環境をより良いものにするべく、保護者並びに教職員が手と手を取り合い協力してまいりたいと思います。

による「大会チェックリスト」の内容が説明されました。打ち合わせから大会会議、レセプション、分科会、閉会式に至るまでの指摘が示されました。「岩手県民の温かさに感動した」「おもてなしの心がうれしかった」という高評価のほかに、進行の手順や弁当配布などについて指摘がありました。



# がんばる岩手

岩手県立大東高等学校 PTA 会長 伊東正廣



今年度創立90周年を迎えた本校では、ここ2年間、PTA役員は「記念事業協賛会」の各委員会にも所属し、10月に記念式典・祝賀会を終えました。祝賀会の受付は母親委員の皆さんが担当し、和やかな心温まる会になりました。

震災に伴う支援としては、被災生徒に対して「震災奨学事業」を行っており、これは同窓会とともに諸会費等を補助し、在学中の勉学に支障がないようにするものです。

また、生徒たちは陸前高田市での草刈り等のボランティア活動や、高田高校の生徒会と交流活動をしており、その際、琢磨祭（文化祭）の収益金を寄付させていただきます。今年の母親委員会は、オレンジ色のポロシャツを揃え、フランクフルトやアップルパイ、ソフトクリーム等を販売しました。さらに、情報ビジネス科の生徒たちは「がんばっぺー岩手2015」等のイベントで沿岸地域の商品を販売し、復興の一助への思いで支援活動をしています。

PTAとしても精一杯バックアップしていきます。



▲被災地ボランティア



▲島山明美さん(花北青雲高校母親委員長)



▲講演に耳を傾ける母親会員

第15回母親会員交流会は10月28日（水）盛岡市のサンセール盛岡で開催されました。会員約140人が参加し、食育をめぐる講演を聴いた後、日頃の母親委員会の活動などについて参加者がグループ討議をしました。

渡辺正和県高P連会長は「全国大会で1万人の参加者を出迎えた県内1千人のボランティアの8割以上が母親会員でした。大会後、歓迎、もてなしが素晴らしかったと高い評価をいただきました。改めて感謝を申し上げます」とあいさつしました。岩手県母親委員会の大浦奈保子委員長は「ともに同じ情報を得て、と

## ともに問題を共有しあう 第15回 母親会員交流会



▲講演:岩手大学・菅原悦子副学長



▲長梁亜紀子さん(葛巻高校母親委員)

もに問題を共有し合うことが目的と思っています」と、交流会の意義を訴えました。来賓として県教育委員会生涯学習文化課の藤原安生担当課長が出席し松下洋介総括課長の祝辞を代読しました。

講演は岩手大学副学長の菅原悦子氏が講師を務め「『食べること』は『生きること』と題して、家庭や地域での食育の大切さについて話しました。食育とは、まず第一に早寝早起き朝ご飯にあり、と言います。朝食をとることが1日の行動バランスをとることにつながると、朝ご飯の大切さを話しました。特に、いつ、誰と、何種類の栄養素を摂取したかが

大事だと言います。「楽しい食事が、食べ物への評価になる。楽しい食事はいい食べ物。共食、一緒に食べることで効果がある」と、家族での食事を勧めました。また、郷土食についても「地域全体を元気にする取り組み」と述べて、家庭や地域での郷土食の実践を提唱しました。

午後は全体協議が行われ、2校から活動報告発表がありました。花北青雲高母親委員長の島山明美さんは、和菓子作り講習会で会員の親睦を図っていると、文化祭で続いている沖縄県の八重山高校との交流事例を紹介しました。名物八重山そばの材料を仕入れてレシピをもとに調理、提供しています。大好評とのことでした。葛巻高母親委員長の長梁亜紀子さんは、主に就職希望の生徒を対象にPTA面接会を行っていることや、文化祭でのファミリーストランの運営などについて紹介しました。地元企業などから提供を受ける牛乳、ヨーグルトは無料で振る舞うとのこと。研修旅行で親和を図っています。

発表の後、30分間のグループ討議が行われ、各校の現状などについて話し合いが行われました。食育については「ぎりぎりまで寝ているので朝食と一緒にとれない」「家族のコミュニケーションがとれない」という発言がありました。弁当については「兄弟で好みが違う」「体力をつけさせるような中身を考える」「どうしても肉中心になってしまう」などの悩みや工夫の声が聞かれました。

最後の講評に立った渡辺会長は「明日からは早起きして子どもと朝食を一緒にとりたいたいと思います」と宣言。「有意義な会になりました」と締めくくりました。

# 年に一度の事務局長研修会

平成27年11月6日(金)  
会場／ホテルルイズ(盛岡市)

## 変革の時代、心豊かに逞しく 生きる高校生の育成を目指して

平成27年度第45回事務局長研修会は、11月6日(金)盛岡市のホテルルイズにて56名の参加者で行われ、2校の研究協議発表、講演会が開かれた。

①杜陵高校 佐藤郁哉先生  
「個々の生徒に共に向き合うPTA活動をめざして」

定通センタースクールとして独自の制度、仕組みを理解してもらい、個々の対応に共に関わっていくためPTA活動は大きな役割を担っている。球技大会での豚汁提供には、準備から保護者と職員、生徒も参加し、交流の場となっている。研修旅行は今年度、市内の南昌山で開催し、写真撮影会、会食、体験作業を行った。時間や経費の負担も減り、好評であった。文化祭でのPTA展示、会報は年2回の発行。昨年度から一斉メー



▲花巻北高校泉径宏先生と杜陵高校佐藤郁哉先生

ル配信システムを導入している。PTA総会は土曜開催、授業参観、面談、講演会と組み合わせること、今年度は出席率が上がった。在籍生徒数の減少により会計予算が厳しくなり、支出項目、事業の見直しが課題である。生徒の様子や学校生活などを知りたいという保護者のニーズは強く、今後も機動力を持つ対応できるPTA活動にしたい。

②花巻北高校 泉径宏先生  
「保護者という最高のサポーターと共に、〜従来通りからの脱却〜」

PTA活動は各種委員会活動として、調査広報委員会は年2回の会報の発行。健全育成委員会は街頭指導を行う。母親委員会は交流会の実施、文化祭での被災地支援バザーを行っている。地区PTA研修会が旧花巻市以外の地区で年2回実施。学年PTA研修会は1・2年生は年2回、3年生は年1回の実施。三年前からPTA活動の活性化のために従来からの脱却を図り、改革を目指した二つの取り組みがある。一点目は進路研修委員会の企画で行うPTA研修旅行先の検討。保護者の希望を優先、地元大学を見学し説明機会も設け、好評であった。二点目はPTA総会への出席率アップ。学外施設を会場に休日開催として、進路講演会、文化部演奏会も実施。今年度の出席率は48.9%と大幅に向上した。保護者は学校のよき理解者でありサポーターである。保護者の意向を

くみ、協力を得ることでPTA活動が活性化している。

「出版」と「啄木研究」の今  
講師 有限会社桜出版

代表取締役・編集主幹  
山田 武秋 氏

東京で編集プロダクションを設立し、桜出版に社名変更。平成26年に故郷の紫波に移転。また、国際啄木学会の評議員として「啄木研究」に取り組んでいる。現在の出版業界は売り上げの悪化、書店数の激減で大変厳しい状況にある。一方、出版の新しい傾向として、自費出版の増加、小ロット化、著書・内容の多用化があり、地方出版社の活躍の余地も増えてきた。元来短歌で有名な啄木だが、没後100年を過ぎ、小説・評論・日記など新たな側面が注目されている。啄木短歌は口語発想の文語体と評されたが、中古の語法を中心としており、



▲講演:山田武秋氏

### 請求なければ支払いなし

#### (一社)全国高P連賠償責任補償制度

PTA(学校)単位で加入する制度で制度発足後14年目となりました。  
(加入状況)  
・全国 2,046校 / 1,224,906人 ・岩手県 69校 / 28,402人  
(事故の際には)  
全高P連賠償責任補償制度事故受付電話 0120-119-110

#### 岩手県高P連高校生総合保障制度

(加入状況) Aプラン(病気補償あり) 62校 2,658人  
Bプラン(病気補償なし) 61校 600人  
Cプラン(自転車重点型) 62校 1,408人  
(引き受け保険会社) AIU保険会社盛岡支店  
TEL 019(653)1411 FAX 019(623)3541



万葉集から源氏物語に至る古典的素養が根底にある。しかも、「二元二面観」という理論的根拠を伴い、哲学的命題である「二項対立」を自己実現しようとしたところに啄木の再評価がある。「文化」は発信する場所が「中心」だ。賢治だけではなく、「啄木」も岩手発世界のブランドとして魅力を発信していきたい。  
△記録▽  
宮野純子  
(軽米高校)

# 岩手県高P連委員会活動報告



健全育成委員長  
千葉弘之  
(千厩高等学校)

## 学校の挨拶運動でマナーアップ!

皆さんの日頃からのPTA活動に対し、敬意と恩労を心より申し上げます。さて生徒諸君を取り巻く環境は、その年々によって流動的であると感じています。最近ではスマートフォン使用によるトラブルや、自転車の運転マナーによるトラブルなど、何事にも経験が未熟なことによるトラブルが問題視されています。生徒諸君には学校生活を大いに伸び伸びと、勉強やクラブ活動に勤しんでもらいたいと願うのが親心です。いずれの問題に対しても個別の案件で



進路対策委員長  
山崎由加利  
(山田高等学校)

## 家庭での情報共有が大切

今年度の進路対策委員会は、委員長は私、山田高校の山崎由加利、副委員長は大槌高校の東梅康悦さん、委員は盛岡商業高校の佐藤信之さん、水沢高校の朽木聖好さん、福岡高校の内沢真申さんです。

6月19日に開催されました第1回進路対策委員会の内容についてご報告いたします。最初に平成26年度活動報告を前年度委員長高橋清治さんから報告していただきました。昨年度は例年

あることが多く、一概には言えないことが多いのですが、東北地区の健全育成委員会や岩手県の健全育成委員会の中でも協議内容になっています。

そのような中で、我々が心を一つにして県内一緒に活動できるものは「登校時の一声運動・マナーアップ運動」だと思います。東北地区の健全育成委員会からの提案で、数年継続した取り組みになつていますが、「さわかやかな朝に互いに声を掛け合う」、そこから始まるものは沢山あるのではないかと思います。取り組み自体は各校へ活動の呼びかけということになっていますが、高校の3年間は、あつという間に過ぎてしまいます。卒業後の大人の仲間入りは「円滑な人間関係は挨拶から」です。皆さん、ご協力をお願いします。

実施している新規卒業生の雇用促進に関する陳情活動は諸事情で実施できなかったという報告がありました。

次に東北地区の第1回進路対策委員会報告を私からしました。協議内容等の要望について保護者の抱える問題や就職で受け入れる会社側はどのような人材を求めるのか。インターンシップは、早めにしたほうが良いのではないかなどについて話し合いがもたれました。

本年度の活動内容については、中央(盛岡地区)だけではなく各地区のハローワークを訪問して様々な業種の実情を聞き、それをまとめてリーフレットへ掲載し保護者への啓蒙活動を実施するとの話し合いがもたれました。しかし、今年度も陳情訪問を実施することはできませんでした。各地区のハローワークへのアンケートを実施して各業種の実情を答えてもらうことになりました。



調査広報委員長  
細田美代子  
(福岡工業高等学校)

## 読んでもらえる広報へ

今年度調査広報委員会では、6月19日(金)に第1回委員会を実施し、今年度の活動について検討・確認を行いました。また、9月4日(金)に実施された東北地区の第2回調査広報委員会では昨年に引き続き、山形県朝日町の広報担当の佐久間淳氏による「伝える広報から、伝わる広報へ」と題しての講演を聴きました。内容は、見やすくかつ読みやすくするためには写真等のレイアウトの仕方や字体の工夫、空間の利用に



母親委員長  
大浦奈保子  
(盛岡第三高等学校)

## 母親委員会交流会ってすばらしい

「未来を担う子供たちの成長を願っていること」をテーマに、今年も母親委員会交流会が開催されました。秋田県の母親委員長さんもお招きし、県内49校132名の参加をいただきました。

「食育すること」「生きること」と題し、岩手大学の理事であり副学長の菅原悦子先生に、家庭や地域での食育の大切さについてご講演いただきました。その中で特に印象に残った言葉があ

よつてぐんと読みやすくなり、伝えたいことが伝わりやすくなることでした。町の広報でも学校の広報でも読者に読んでもらいたいと思う気持ちは同じなので、活用していただけたらうれしいとお話でした。今年には全国高P連全国大会が岩手で開催されました。大会における子ども達の活躍や各種講演会での内容、そしてシンポジウムの内容などが山ほどあります。

1月には、東北地区高P連広報紙リンクル審査が山形で行われます。皆様も学校のこと、家のこと、楽しかったこと、教えたいことや聞きたいことが沢山あるのではないのでしょうか。小さなことから一歩が積み重なって、多くの方に伝わる力になります。皆さんも自分の学校を紹介してみませんか。

ります。

「健康は手段であつて目的ではない。自己の目標実現のための健康である」。

健康オタクになる前に、食事をするという本来の目的・意味・意義を考えなければならぬのだと改めて気づかされました。

また、郷土食を伝える意義についても深くお話しいただきました。

この後、県内2校からの実践発表、全体発表と進み、各校の情報交換の場として有意義な会であつたと思います。

普段子どもと接することが多い母親の皆さんが、共に同じ情報を得て話し合い、問題を共有し合えることができるこの活動をこれからも大切にしていきたいと思ひます。

## 「見える」 「参加する」 PTA活動

岩手県立盛岡となん支援学校  
PTA会長

藤村 ゆみ子



▲地区PTA活動 木工細工

盛岡となん支援学校は、主として「体の不自由な児童生徒」を対象とする特別支援学校です。現在、創立53年目となります。PTA会員は県全域となり、卒業後地域で暮らすための繋がりを深めていくことが重要と考え、県内を8つに分けそれぞれの地区で活動を行っています。障がい者支援施設での食事会・ピザ作り・手作り作品制作・科学館・美術館見学等楽しみながら情報交換（車いすで利用できる地域の飲食店や店舗・施設等の情報、福祉サービス利用・実習先の情報等）を行い、学部を超えて交流できる良い機会となっています。



▲いものこ会

また、今年「見えるPTA活動」を目標に年度初めの総会時、学部ごとに「顔の見えるPTA昼食交流会」を開催。仕出しのお弁当を食べ、自己紹介や昨年1年間のPTA活動のビデオを見ながら話題に取り上げ、和気あいあいと賑やかな雰囲気で行われました。

現在、卒業後の進路先の社会資源が非常に少なく、受け入れ先の開拓が急務になっています。これからのPTAとして現在の活動の縦横の繋がりをさらに強め、その拡大へと力を注いでいかなければなりません。「障がいがあっても社会の一員として暮らしたい」。どうぞこれからも皆さんのお力添えを宜しくお願いします。

## 「小さくとも キラリと光る」 PTA活動

岩手県立福岡高等学校浄法寺校  
PTA会長

田口 和則



本校は昭和23年福岡高等学校定時制浄法寺分校として創立されました。その後、昭和50年には地域の熱い要望により独立校として開校しましたが、平成20年、少子化の影響に伴い福岡高等学校浄法寺校として再出発することとなりました。現在、生徒は3年生9名のみですが、「小さくともキラリと光る」学校をモットーに先生方のご指導のもと、元気に勉学や諸活動に励んでおります。

PTA活動の特色としては「参加率の高さ」と「学校行事に親も参加し、一緒に楽しむ」ことが挙げられます。総会は平日夕刻開催にも関わらず、例年7割以上の参加をいただき、PTA活動



▲ソフトボール交流試合

への意識の高さがうかがえます。学校行事では、体育祭二日目にジェスチャーゲームやバレーボール、ソフトボールの交流試合に参加しました。丸一日、親も子も思い切り汗を流し、普段家庭では見せない子どもの姿を間近で見ることができ、貴重な経験となりました。文化祭では生徒達が地域の伝統文化である「浄法寺太鼓」を披露します。私たちPTAも応援に駆けつけ、飲み物の差し入れを行いました。

本校が今年度で閉校となるのは誠に残念ではありますが、残された日々を大切に、一人ひとりが参加して良かったと思える、心に残るPTA活動を目指してまいります。

## 編集後記

紅葉の時期もあつという間に終わり、寒風に身を縮める季節に移り変わってきました。この時期は子供達も大きな行事を迎え、日々勉強や文化祭などの取り組みや部活動と忙しく活動し、春先の不安な顔から、何かを見つけて前へ進む落ち着いた顔に変わってきたように感じられます。自分は、この子供達と同じ年代の時、こんなに生き生きとした顔をしていただろうかと考えたとき、すでに仕事には就いていたものの、希望は持てていなかったように覚えています。子供達が一人の社会人として世の中に出ていくとき、自分の子供として世の中に出ていくのではなく、一人の社会人として出て行くことを、親としてどこまで教えられるかを考えさせられます。何でもやってあげることが良い親にとらえられがちですが、違うことに気がついている方は何割いるでしょうか。近い将来、社会に出る子供達に教えられることがまだ沢山あること。それを親が学ぶ機会があればいいなと考える今日この頃です。

全国高P連岩手大会も無事に終えることができ、各研究大会も盛況でした。やはり、皆考えることは同じなんです、と感ぜられる大会でした。

（調査広報委員長 細田美代子）

### 〈編集委員〉調査広報委員会

- 委員長 細田美代子（福岡工業高校）
- 副委員長 長川 敏彦（天野高校）
- 委員 丹内 真波（紫波総合高校）
- 堀田 圭二（花北青雲高校）
- 谷地 保（大船渡高校）

### ◇事務局

- 星 法男（福岡工業高校）
- 高橋 秀幸（県高P連）
- 木村 智子（県高P連）